

八戸市南郷歴史民俗資料館

特別展『クジラの村 - 山から海へ出た男たち - 』

開催期間：2021年7月17日（土）～2021年10月17日（日）



【企画展の内容・目的】

- 昭和 10 年代に始まる旧・中沢村（後・南郷村、現・八戸市南郷）の出稼ぎ捕鯨は、戦後徐々に従事者が増加し、最盛期を迎えた昭和 30 年代当時の南郷村は、山の中にありながら「クジラの村」と呼ばれました。本展では、捕鯨関係資料や八戸とクジラにまつわる資料などを紹介し、クジラという海の資源と我々の暮らしとの結びつきを振り返り、「クジラ」を通して「海」と「人間」について身近な視点から考えました。
 - 講演会「クジラについて学ぼう！クジラ博士の出張授業」では、一般財団法人鯨類研究所の講師により、クジラの生態や体の特徴などについて講演していただきました。また、講演会「南郷の出稼ぎ捕鯨」では、実際に南氷洋捕鯨に従事した講師により、当時の仕事内容や、思い出などの体験談を語っていただきました。
- この他、クジラと他の動物との骨格の違いを実物資料に触れながら体感する体験学習会「すごいぞ！クジラの骨」、学芸員によるギャラリートークを開催しました。
- これらの関連事業により、クジラについて理解を深め、八戸とクジラ、更に海との関係をより身近に感じ、地域の歴史文化と海との繋がりを体験していただきました。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2021年7月17日（土）～2021年10月17日（日）
- 開催場所：八戸市南郷歴史民俗資料館 展示室F・特別展示室
- 入場者数：771人



八戸市南郷歴史民俗資料館 外観



特別展会場 入口

「初めにー八戸とクジラー」では、八戸とクジラに関りのある出来事を紹介し、導入としました。

江戸時代以前の八戸では、自然と浜辺に乗り上げてしまったクジラを「寄り鯨」と呼び、大切な資源として活用してきました。

明治44年（1911）、鯨村（現八戸市鯨）に建設された東洋捕鯨株式会社の解体場では、クジラの血液などを大量に海に流したことが原因で不漁になったとして、周辺の漁業者による焼き討ち事件が発生しています。

昭和に入ると、旧南郷村を中心に多くの人が出稼ぎ捕鯨に従事しましたが、昭和30年代をピークに、相次ぐ禁漁政策により出稼ぎは消滅します。

現在、国際捕鯨委員会を脱退した日本は商業捕鯨を再開し、八戸港はその拠点の一つとして重要な役割を担っています。



「第1章-山の中の「クジラの村」-」では、中沢村（後南郷村 現八戸市南郷）において出稼ぎ捕鯨を奨励した市澤安恵村長の紹介や、捕鯨船団母船の模型、ノルウェー式捕鯨砲関連資料、南氷洋で捕獲されていたマッコウクジラ関連資料などを紹介し、昭和30年代に最盛期を迎えた旧南郷村の出稼ぎ捕鯨について学ぶ展示としました。



「第2章-八戸クジラ巡り-」では、八戸市内にあるクジラと関わりのある代表的な場所をいくつか紹介し、八戸とクジラの繋がりの深さを学ぶ展示としました。特に、天和元年（1681）、マッコウクジラ36頭が浜に上がった際、そのクジラの骨を使ってかけられたとされる「鯨橋」については、その部材の一部と言われている資料を展示しました。



「第3章-クジラ宝物殿-」では、捕鯨従事者が5ヶ月にわたる長い航海の期間中に楽しみとして製作した民芸品を展示しました。民芸品は、マッコウクジラの歯を加工した置物やパイプ、ハンコ。ミンククジラのヒゲを薄く削ぎ、丸く花のように加工した「オサバナ」や、ナガスクジラなどのヒゲに船などの絵を描いた「スクリムショー」などを展示しました。

「おわりに-海とクジラの今-」では、戦後の捕鯨史によりその歴史を振り返るとともに、昭和30年代には食品だけでなく工業製品や薬品にまでおよんだクジラ利用の多様性及び現在の商業捕鯨の様子も紹介し、今後の「人」と「クジラ」の関係について、問いかける内容となっていました。

【来館者の声】

- クジラの骨を間近で見られて大きさが分かってよかった。
- 山村出身者がなぜ海の仕事をしたのか不思議に思っていたが疑問が解けた。
- 海の資源が豊かだった時代を思い、もっと大切にしなければと改めて感じた。
- 自分は海とは関係ないと思っていたが、世界的に見れば密接の関わっていることが分かった。

2. 関連事業の内容

■講演会「クジラについて学ぼう！クジラ博士の出張授業」

【開催日時】2021年7月22日（木） 14:00～15:30

【開催場所】八戸市島守市民サービスセンター 大ホール

【参加者数】9名

【目標・内容】

- 一般財団法人日本鯨類研究所主任研修員後藤睦夫氏に、クジラの種類や生態、特徴などについて講演していただいた。
- クジラの生態を中心に、捕鯨や調査研究、食品としての魅力など内容は幾多にわたり、また、体験学習も交えながら、分かりやすい内容で行われた。



会場の様子



講演の様子



講演の様子



講演の様子

後藤先生は、クジラのヒゲの標本や、ミンククジラとシロナガスクジラの実物大の横断幕、骨伝導で音を聞くことのできる器具を活用するなどして、体験学習を交えて分かりやすく説明されていた。受講者は、クジラについて、様々な情報を得ることができ、より一層興味を持つことができたものと思われる。

【来館者の声】

- 実物大のクジラが描かれた横断幕やたくさんの資料により理解につながった
- 耳骨やヒゲに直に触る体験ができてよかった

■体験学習会「すごいぞ！クジラの骨」

【開催日時】2021年7月25日（日） 14:00～15:30

【開催場所】八戸市島守市民サービスセンター 大ホール

【参加者数】13名

【目標・内容】

- 動物考古学を専門とする八戸市教育委員会社会教育課主幹杉山陽亮氏が、クジラと他の動物の骨の特徴や違い等について講演を行った。
- 映像を使った解説とともに、クジラ、人間、動物の骨格標本やモデルを見て、触れて、学ぶことができたため、親子の参加者にも、分かりやすい内容になっていたと思われる。



会場の様子



体験学習の様子



体験学習の様子



体験学習の様子

杉山氏は、標本や模型を使い、クジラ、人間、イノシシなど動物の骨格を比較して、それぞれの体の動き方や、生態などの特徴を解説していた。また、縄文時代の遺跡から出土した鯨骨製の道具を参加者に触れさせ、人は古くからクジラを利用していたことも説明していた。受講者は、クジラの体の仕組みや特徴について理解を深めることができたものと思われる。

【来館者の声】

- クジラだけではなく、イルカや鮫の歯についても、実物を触ることができてよかった。
- 陸上と海に生きる動物の骨の違いや共通点が分かり、海で生きるための進化を学ぶことができた。
- 6000年前のクジラの骨でできたお皿を触ることができ、海の歴史を感じられた。

■講演会「南郷の出稼ぎ捕鯨」

【開催日時】2021年10月3日（日） 14:00～15:30

【開催場所】八戸市島守市民サービスセンター 大ホール

【参加者数】17名

【目標・内容】

- 南郷歴史民俗資料館学芸員が、南郷で行われていた出稼ぎ捕鯨について説明をした後に、捕鯨従事者の方々から当時のお話を伺った。
- 実際に出稼ぎ捕鯨に従事した方々から、船上の生活や捕鯨操業時の過酷な労働について生の声を伺うことにより、地域の歴史の出来事として理解するとともに、自らと海の関係についてより身近なものとして感じる事ができたものと思われる。



会場の様子



学芸員説明の様子



講師によるお話の様子



受講者質問の様子

初めに、学芸員から南郷で出稼ぎ捕鯨が行われるようになった経緯、捕鯨の方法、船団の構成、航路と期間などを説明し、その後講演をおこなった。

講師である元捕鯨従事者村上氏には、一問一答形式で船上生活や印象に残った出来事を語っていただき、持参していただいた当時の写真も見せていただいた。また、受講者の中にも元出稼ぎ捕鯨従事者で体験を語ってもよいという方が2人いらしたため、急遽座談会方式で当時の体験を語っていただいた。

最後には、受講者からの質問にも答えていただき、受講者にとって南郷の出稼ぎ捕鯨に理解を深めるまたとない機会になったと思われる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【来館者の声】

- 農山村も海に密接に関係していることが分かり、海についてより一層興味が湧いた。
- 捕鯨従事者に直接当時の話が聞ける貴重な機会であった。
- 八戸の歴史として、海と魚とクジラについて記録に残していただきたい。

■ギャラリートーク

【開催日時】①2021年7月31日(土) 14:00～15:00
②2021年10月16日(土) 14:00～15:00

【開催場所】八戸市南郷歴史民俗資料館 展示室F・特別展示室

【参加者数】①1名 ②3名

【目標・内容】

- 南郷歴史民俗資料館学芸員が、特別展の内容について、資料の解説をし参加者からの質問にも随時回答しながら案内した。
- 展示会場に収まらなかった資料や、出稼ぎ捕鯨従事者からの聴き取り内容などを補足し、参加者の疑問にもその場で対応したため、クジラを通じた八戸と海の関係について、より深く理解していただけたと思われる。



ギャラリートーク①の様子



ギャラリートーク①の様子



ギャラリートーク②の様子



ギャラリートーク②の様子

八戸とクジラの歴史や文化に関する展示資料について解説するとともに補足の説明を行いながら参加者を案内し、質問があればそれに答える形式で行った。また、実物のクジラの頭骨を使いクジラの体の特徴も解説した。

新型コロナウイルス感染症への警戒もあり少人数での開催となったが、詳細にわたる解説や、多くの質問に答えることができ、参加者にとって八戸とクジラの間をより深く理解する機会になったと思われる。

【来館者の声】

- 出稼ぎについてたくさんの苦勞があったことを知った。
- クジラはその体のほとんどが利用されていたと知った。
- 八戸にもクジラ汁はあるが、土地によって味付けなどが違うと知った。

【事業全体のまとめ】

新型コロナウイルス感染症のため、期間中 1 ヶ月間の休館や併催行事の中には中止や延期となったものもあったが、展覧会は前期後期の二部構成とし、八戸の人々と海との関係を伝える重要有形民俗文化財「八戸及び周辺地域の漁撈用具と浜小屋」の一部資料を当館として初展示するなど、充実した内容となった。

南郷地区における出稼ぎ捕鯨の歴史だけではなく、食文化、生き物としてのクジラの特徴、国際情勢と捕鯨など、多角的な視点から八戸とクジラについて展示を行うことができ、併催行事では、実際に捕鯨に従事した方々のお話を聞くという貴重な機会を創出することができた。

来館された方は、南郷とクジラの歴史を知るだけではなく、クジラそして、海との関わりを身近に感じて、興味を抱いていただくきっかけになったと思われる。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 公益社団法人 日本水産資源保護協会	宣伝・配布資料提供
2. 一般財団法人 日本鯨類研究所	講師派遣・宣伝・配布資料提供
3. 一般社団法人 大日本水産会	宣伝・配布資料提供
4. 山田町立鯨と海の科学館	展示資料貸出
5. おしかホエールランド	展示写真資料提供
6. 外房捕鯨株式会社	展示資料提供・映像資料撮影協力

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 広報はちのへ7月号	南郷歴史民俗資料館特別展「クジラの村 - 山から海へ出た男たち - 」 6月20日発行
2. 東奥日報 タウン情報企画「コンパス」夏号	南郷歴史民俗資料館特別展「クジラの村 - 山から海へ出た男たち - 」 7月9日
3. デーリー東北 サマーインフォメーション	南郷歴史民俗資料館特別展「クジラの村 - 山から海へ出た男たち - 」 7月21日

以上